

今月の一枚



同朋ゼミ旅行集合写真（10月7日、いたくら恵信尼の里にて）

◆◆ 同朋ゼミ・バス旅行 ◆◆

順慶寺では、定例会として同朋ゼミを開講している。その同朋ゼミの研修旅行として親鸞聖人の御旧跡を毎年訪ねているが、今年は聖人ご流罪の地、越後に赴いた。厳しい生活を送られた聖人に思いを馳せつつ、実りのある旅行となった。

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2026年（令和8年）

11月号

VOL. 397

◆ 他と比べることの貧しさ ◆

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』の次の一節です。

「自分の得たものを軽んじず、他人の得たものを妬むな。

他人を妬む人は、

心の集中を得られない」

（『ダンマパダ』第三六五偈）

この言葉にまつわるお話をご紹介します。

私たちは、さまざまなご縁によって授かったものに満足できず、つい他人の得たものに目を向けてしまいます。すると、隣の芝生ばかりが青く見え、自分の境遇がみすばらしく感じられます。本来、自分は自分、人は人であり、比べる必要はありません。それでも私たちには、他人との比較によって自分の立場を確かめようとする癖があります。

今月は、釈尊の教団にいた、ある比丘（出家修行者）のお話です。

その比丘は、釈尊の教団で托鉢（たくはつ）をしながら暮らしていました。

今月の釈尊の言葉

得たものを大切にせよ

他人を妬む人は

心の集中を得られない

『ダンマパダ』
第365偈より



若院のテーマカット NO.87



ある日、釈尊の教団とは別の教団に属する友人から、「こちらでは、たくさんのお食べ物や供養をいただける。しばらく来てみないか」と誘われました。比丘はあまり深く考えずにその誘いに応じ、数日間その教団に滞在しました。ただ、友人や別の教団の考えに賛同したわけではありませんでした。

しかし、このことを知った釈尊は、他と比べていては、心の安らぎを失うと説きました。そして、他人から受けた供養の良し悪しで左右されるのではなく、これまで自分が得たものに心を致すようにと諭したといひます。

◇縁の大切さ◇

釈尊が悟りを開いたのは三十五歳のときです。菩提樹の下で瞑想し、縁起の道理を体得して悟りに至ったといわれています。

しかし、そこに至るまでには、大きな苦難がありました。

二十九歳から三十五歳まで、釈尊はウルピラの森に入り、人から供養を受けず、自力で悟りを得ようと厳しい苦行に励みました。当時のインドでは、欲望を断ち、身体を厳しく痛めつける修行が精神を清め、真理に近づくと言われていました。一日に米やゴマを一粒だけ口にし、ときには絶食に近い修行を続けたため、手足は枯れ木のように痩せ、肋骨や背骨が浮き出て、目も落ちくぼみました。六年間苦行を重ねても救いには至らず、ついに断念し

て近くの川で沐浴しました。

そのとき、釈尊の痩せ細った姿を見た村娘スジャータは、急いで乳粥を持ってきて釈尊に施しました。当時施しを受けることは墮落とみなされていましたが、釈尊は乳粥の供養を受け、次第に体力を取り戻しました。そして菩提樹の下で瞑想し、ついに十二月八日の明け方、明星を見て悟りに達したといえます。

その悟りとは、極端に体を痛めることでも、快楽に溺れることでもありません。人は食事や言葉、助け、思いやりなど、さまざまな縁に支えられて生きているという気づきでした。

私たちの暮らしも、これまでも、これからも、実はさまざまな縁に支えられています。そのことに気づき、自分の力だけで生きているという傲慢さを見つめ直すことが、仏教の教えです。

①【苦行】

インドにおいて、苦行に励む行者は本人のみならず、人々に災いをもたらす悪いカルマ（悪業）をも打ち破ると信じられているため、インド社会で聖者として一定の尊敬を受ける存在である。

苦行僧はあらゆる欲や執着を絶ち、苦行や瞑想などによって輪廻からの解脱を達成し、涅槃を得ることを人生の目標としている。

（ウィキペディアより）

②【スジャータ】

スジャータは、古代インドの女性。釈迦が悟る直前に乳がゆを供養し、命を救ったという「乳粥供養」の説話で知られる。スジャータは古代インドの女性名で、「良い生い立ち、素性」を意味する。漢訳では善生、難陀婆羅など。彼女の身辺は経典によって異なる。

（ウィキペディアより）



「正信偈」には、お釈迦さまが生まれてきた本当の意味が書かれていると聞きました。

「正信偈」のお話を聞いたので、すね。少しむずかしかったかもしれませぬ。

「正信偈」は漢字が多いので、大人でも意味がよく分からないことがあります。今すぐに理解したい気持ちもありますが、ここは焦らず、何度もお話を聞いて、少しずつ親しんでいけば大丈夫ですよ。

をみんなに伝えるためだった、と書かれています。仏さまがこの世に生まれた一番大切な目的を「出世本懐」といいます。

みなさんの、この世に生まれた一番大切な目的はなんですか。生まれた家や両親のことで、よかった、悪かったと決めつける前に、「わたしが生まれたとき、どんな願いを持っていたの？」と両親に聞いてみてください。きっと名前をつけるときから、「こんな子に育ってほしい」「大きくなったら、こうなってほしい」と願っていたはずですよ。

両親の願いを聞いても、すぐに自分の生まれてきた目的が見つかるとは限りません。けれども、両親の願いを知り、まわりの人の言葉に耳を傾けながら、自分のことも少しずつ分かってくると、「自分は今生まれてきたのだらう」と、あらためて考えられるかもしれません。

《第七十九回 白骨の御文》

最近、住職に代わって初七日法要をお勤めする機会をいただく機会がありました。その際には、必ず「白骨の御文」を拝読しています。

「白骨の御文」には、人の命がいかに儚く、いつ失われるとも知れないものであることが説かれています。長きにわたり読み継がれてきた

お寺とともに

「生きる意味」



「何のために生まれて何をして生きるのか」と考えられないなんてそんなのはいいやだー」

ご存じ、アンパンマンマーチの冒頭の歌詞です。

子どもたちが幼かった頃、何度と一緒に聴いていたこの歌詞が、意外にも人生の核心を表しているように感じられ、今も心に残っています。

それから時は流れ、そろそろ還暦を迎える今になっても、「自分が生きる意味」を改めて問われると、いまだに答えることができません。

誰もが忙しい日々の中でそのような難しいことについてゆっくり考える時間はないと言われるけれど、それまでもかもしません。しかし、お寺の真宗講座で改めて正信偈の「出世本懐」という言葉の意味に気付かされると、このまま知らぬ間に年を取ってゆくことがとてもむずかしいと感じました。

「芸術は長く、人生は短い」この言葉を最後に残された坂本龍さんは、ご自身の生きる意味を確信し、その人生を全うされた稀有な音楽家であったのだと思います。

これから先、私の平凡な人生にもその答えがあるのなら、ぜひ知りたいと思っています。

同朋ゼミ・バス旅行

親鸞聖人流罪の地を訪ねて

去る10月7日から8日、爽やかな秋晴れのもと、順慶寺同朋ゼミの研修旅行を実施しました。親鸞聖人流罪の地である上越・居多ヶ浜を中心に、15名が小型バスで巡りました。

同朋ゼミでは今年、親鸞聖人が法然上人のもとで充実した時を過ごされたこと、承元の法難により法然上人は土佐へ、親鸞聖人は越後へ流罪となったことを学びました。また、親鸞聖人が流罪の地で自給自足をしながら、後に妻となる恵信尼と暮らされたことについても学びました。



▲浄興寺本堂

旅行初日の7日は、新潟県上越市板倉区の「いたくら恵信尼の里」と、親鸞聖人の創建と伝わる高田の浄興寺を訪れました。恵信尼の里では、ボランティアガイドから雪深い土地での暮らしや恵信尼の優しさについて学びました。浄興寺では、若坊守と事務員の方から寺の歴史を伺い、宝物館を拝観しました。

妙高高原の宿に泊し、夕食には妙高

自慢のそばを味わいました。翌8日は、親鸞聖人流罪の地・居多ヶ浜へ向かいました。ボランティアガイドの案内で居多ヶ浜見真堂、五智国分寺を巡り、国府別院では輪番からお話を伺いました。

親鸞聖人も初めて目にされたであろう日本海は、秋晴れのもと穏やかに風いていました。それでも、漂う潮の香りと肌を刺す風に触れ、往時の親鸞聖人の暮らしに思いを馳せました。

ミツバチに注意！

境内駐車場から上がつてすぐの楠に、ミツバチが巣を作りました。ミツバチは比較のおとなしく、おやみに刺激しなければ危険性は低いですが、駆除せずに見守ることにいたしました。ただし、刺激すると刺される可能性がありますので、安全のため楠には近づかないようお願いいたします。



▲親鸞聖人上陸の地・居多ヶ浜



▲国府別院



(人形劇団パン HP より)

こども報恩講にプロ人形劇

今年のごども報恩講にはプロの人形劇団「パン」がやってきます。人形たちのコミカルな動きや音楽に合わせて、どのようなお話が飛び出するか、お楽しみに。人形劇後には大人気のカレーをみなさんいただきます。みなさまのご参加をお待ちしております。

10月度護寺会物語者（敬称略）

精励院釋敏達

9月28日寂 志水敏明(82)

豊明市 志水昭仁様の父

釋尼美福

10月8日寂 倉地ミサエ(92)

西丘組 倉地誠様の母

釋知泉

10月16日寂 村田知則(65)

豊明市 村田由香里様の夫

釋好徳

10月23日寂 神谷昭徳(73)

名古屋市 神谷明美様の夫

香賢院釋尼昌泉

10月1日寂 久野昌子(97)

名古屋市 大原榮子様の母

実誠院釋澄相

10月12日寂 酒井澄(94)

市場下組 酒井徹様の義父

釋尼愛楽

10月20日寂 濱島綾子(90)

豊明市 毛受尚美様の母

以上七名の方が

浄土にお還りになりました

合掌

編集部短信

◆境内駐車場の駐車方法変更について

Ⅱ さる10月8日、アズマ(株)により、境内駐車場の白線が引き直されました。以前より、駐車場の傾斜により車の扉が勢いよく開いてしまう危険が指摘されていたため、それを解消すべく駐車場の向きが変更されます。また、以前に撤去されたガレージ部分にも2台分の駐車が可能となりました。

◆惣骨塔個別区画増築についてⅡ さる10月16日、中伊石材(株)により、順慶寺境内墓地の惣骨塔個別区画の増設工

編集雑誌

事が始まりました。11月の当山報恩講までには、南側墓地の一番奥手前の列に48基増設される予定です。

あつという間に十一月を迎えました。日中は暑さを感じることもありますが、朝晩は肌寒くなり、寒暖差の大きい日が続いています。昨年の秋は大変な暑さだったと記憶していますが、今年は秋らしい気候を感じられるようになりました。一方で、雨の日も多く、湿気に悩まされることもありましたね。(若)



11月の主な行事予定

日曜	行事内容	掃除当番
1日	寺カフェ(9:00～、順慶寺南落間他)	
2月	お楽しみ会(13:00～、順慶寺本堂)	
3火		
4水		
5木		木-1
6金		
7土	助音講(16:00～、順慶寺玄関)	
8日		
9月	太鼓練習(19:00～、泉田市民館)	
10火	おみがき・大掃除(8:30～、順慶寺)	
11水	花立て(8:00～、順慶寺本堂)	
12木	事前準備(8:00～、順慶寺)	木-2
13金	山報恩講 第一日目・子ども報恩講(17:00～)	
14土		
15日		

16月		
17火		
18水		
19木	同朋ゼミ(順慶寺玄関、14:00～)	木-3
20金		
21土		
22日		
23月		
24火	本山報恩講団参	
25水		
26木		木-4
27金		
28土	宗祖聖人御命日(7:00～、順慶寺本堂)	
29日		
30月	太鼓練習(19:00～、泉田市民館)	

11月行事内容 詳細

当山報恩講

11月13日(金)～15日(日)

於…順慶寺本堂

順慶寺最大の法要、報恩講を護寺会の総力でお勤めいたします。本年は、初日には、夕方からこども報恩講を開催し、二日目・三日目は通常の午前午後日程で法要を開催する予定です。三日目の午後の法要は、三河雅楽研究会の皆さまによる雅楽の伴奏(附物)があります。お斎接待は、二日目を今川・三河地域、三日目を泉田・尾張地区のお斎ご案内とさせていただきますが、都合により別日につくことも可能です。お抹茶接待もあります。

令和8年度 当山報恩講日程

11月13日(金) 初日

13時～15時 ビデオ上映
17時～18時半 こども報恩講

11月14日(土) 第二日目

10時～12時 お勤め・法話
13時～15時 お勤め・法話

講師…同朋大学講師 飯田真宏氏
◎お斎案内…今川地区・三河地域他

11月15日(日) 最終日

10時～12時 お勤め・法話
13時～15時 お勤め・法話

講師…元名古屋大教授 宇治谷顕氏
◎お斎案内…泉田地区・尾張地域他

お知らせ

●本山相續講金(院号法名・收骨料)改定のお知らせ(再掲)
来年令和9年7月より、東本願寺において院号法名及び收骨料が値上げされること決定されました。これまで院号法名は8万円、真宗本願(東本願寺)への收骨は12万円でしたが、来年度(令和9年7月)からは、院号法名は10万円、收骨は15万円が必要となります。

●各戸お取越をはじめます
今年もお取越のシーズンがやってきました。今年は、順慶寺の報恩講が終了してから、住職と若院が手分けして、名古屋、岡崎地区から始めていきます。お勤めさせていただくお宅には、今年も事前にハガキを出して、お日にちをお知らせします。



じゅんこのときめき歳時記
朝晩は肌寒い日が続く、冬の気配が感じられるようになりました。秋が深まり、冬の気配が立ち始める日といえば「立冬」です。秋分と冬至の中間にあたり、二〇二六年は十一月七日が立冬となります。

山に冬 来ると騒げる

寺鳥

高木晴子

